



名栗小学校だより

学校教目標

なぐり

かしこく
やさしく
たくましく

児童数
35名

名栗を愛し、自分を愛し、明るく元気に生きる児童の育成

令和4年10月26日 第8号

運動会3つ それぞれに・・・

名栗地区大運動会

運動会当日にも話しましたが、入場行進の際、本校の児童が地域の方々に挟まれて並んだ様子を見て、名栗小の子どもたちが、このようにして常に地域の方々に守られていることを象徴している光景に思えて、少しばかり感動してしまいました。私たち名栗小の教職員も皆、真剣に一人一人の子どもと向き合っています。今後も手を携えあっていけたらと願っています。よろしく願います。

また、スポーツ協会の皆様をはじめとした役員の方々、ボランティアの中学生も含め、準備、進行、片付けとすべてにおいて手際よく、感心するばかりでした。「阿吽の呼吸」というか「勝手知ったる」というか、下の名前やあだ名で呼びあう地域の方同士の関係の良さもうらやましい限りです。小学校も仲間に入れてくださいね。

名栗幼稚園の運動会

10月1日(土)には、名栗幼稚園の運動会を参観してきました。どのクラスだったか失念してしまいましたが、かけっこの際、ある男の子が走ろうとせずにしゃがみ込んでしまっています。いつもそうなのか、たまたま機嫌を損ねていたのか、私にはわかりません。大人は、なんとか他の子どもと同じように走らせたい、立ち上がらせたいと思ってしまいがちです。せっかくの晴れの舞台ですから、カッコいい姿を見せてほしいという気持ちになるものですね。が、隣にいた女の子は“ただ見ている”のです。大事な運動会当日、保護者の方々が見守る中、女の子だって相当緊張しているだろうに、その男の子のことを気にかけてただ見ているのです。「ちゃんとしなよ!」と責めているわけではなく、「頑張ろうよ!」と励ましているわけでもなく、かといって無関心なわけでもなく、ただ見ている。無表情でありながら、その眼差しがなんとも優しく、なんともあたたかくて・・・。勝手な想いかもしれませんが、私にはそう感じられました。なんて素敵なんでしょう!

名栗小学校でも、一人一人の子どもを尊重し、その子が「あるがままの自分でいられる」よう務めています。私たち大人は、「こうした方がいい」、「ああするべきだ」と、強制したり矯正したりしたくなりがちですが、あの素敵な女の子のように、まずは見守る。常にそういう心持ちや態度で子どもたちに接していたいと思わせる出来事でした。

飯能市仲よし運動会

10月4日(水)には、飯能市仲よし運動会が行われました。仲よし運動会は、飯能市内全12校の小学校6年生が一堂に会し、陸上競技を行う行事です。名栗小学校は6年生だけではリレーのチームが組めないため、5年生も参加しました。今年は3年ぶりの開催です。名栗小のような小さな学校の子どもたちは、大勢の学校に囲まれると緊張してガチガチになってしまうのではないかなどと心配していましたが、実に堂々とした態度で臨み、ひるむことなく普段通り、いやそれ以上の記録を残すことができました。素晴らしいです。勝手な解釈かもしれませんが、普段から愛され、認められ、しっかりと自己肯定できている子どもは、どんな状況でも自信をもっていられるのでは?と職員室で話し合いました。一般に言われる学力向上ということに今すぐには結びつかないかもしれませんが、自己肯定感や自尊感情を育てていくことが将来的に大きな力になると考えます。名栗小学校が目指しているところです。

